

# KEM News Letter 1号

関東歯内療法学会の組織名変更に伴い、名称及びロゴ変更を行いました

## 2016年度第15回学術大会・総会開催報告



### 第15回学術大会・総会が開催されました

日時：2016年2月11日（木）

場所：（株）ヨシダ（東京・上野）

大会長：北村和夫教授（日本歯科大学）

実行委員長：山崎孝子（日本歯科大学）

テーマ：「MTAをよく知ろう」

講師：興地隆史教授（東京医科歯科大学）

山田國晶先生（京都市開業）

高田光彦先生（兵庫県開業）

吉松宏泰先生（東京都開業）

鈴木賢策賞受賞講演：辻本真規先生（長崎大学）

学会会長賞受賞講演：天野晃先生（東京都開業）

一般講演5演題、テーブルクリニック9演題が行われた。

参加者は245名（有料参加者223名）

協賛：株式会社ヨシダ

鈴木賢策賞に金丸順策先生、学会会長賞に藤井万弘・山添悠貴先生が選ばれました。

天野 泰幸

東京都開業

今回のテーマは『MTAをよく知ろう！』ということで、研究・臨床ともに興味深い演題が多数みられた。

興地先生と高田先生の講演では、MTAの製品を多数紹介され、その組成について詳しく説明していただいた。興地先生の講演では、各種MTAセメントの構成成分とそれぞれの特徴を、高田先生の講演では、各種MTAセメントを先生独自の方法で実験・考察されており、説得力のある内容で、先生の臨床

に対するこだわりを感じた。

山田先生と吉松先生の講演では、MTAの臨床症例を提示していただいた。山田先生はあくまで基本的に忠実な歯内療法処置の上でのMTAの臨床応用を、吉松先生は新たな適応拡大の可能性を感じさせる講演であった。

テーブルクリニックでは、小嶋先生・金平先生はイオン導入法を紹介していただいた。歯内療法において、根管および根管を構成する象牙質が汚染されているのは、十分な予後は得られないのは事実である。

そこで根管を構成する象牙質だけでなく、歯を構成する全ての象牙質を隅々にまで消毒する、いわゆる象牙質全体消毒の効果を小嶋先生は臨床症例を通して紹介された。また金平先生は天然歯を用いてイオン導入が如何に象牙質全体に効果を及ぼすかを動画により分かりやすく説明していただいた。またイオン導入の消毒効果は亜鉛イオンの集積によることも実験的に解説していただいた。現在、再生医学が注目されており、あらゆる医学分野でその応用が期待されている。歯内療法においては根管内の歯髄再生、歯周治療においては歯根表面のセメント質再生が重要と思われる。それらの達成においては、象牙質全体の完全な浄化が前提となる。今回の講演では保存学の新たな展開が始まること予感される内容であった。

宇戸 幸長

東京都開業

2016年2月11日、上野にある(株)ヨシダにて関東歯内療法学会 第15回学術大会が行われました。

今回のテーマは「MTAをよく知ろう！」私は日常臨床でほとんどMTAを使用しておらず、勉強不足のところがありますので今回のテーマはとても有意義でした。

日本の薬事では覆髄材として認可されているMTAですが海外では多岐にわたる臨床応用がなされていて、午前のテーマ講演では興地先生、山田先生、高田先生、吉松先生と4名の講師による様々な臨床ケースや製品のお話がありました。

私が特に興味深かったのは興地先生の製品選択のポイントです。MTAの歴史的推移や各メーカーの特性をわかりやすく噛み砕いてご講義して下さいました。まさに私のようなMTAビギナーにはとてもありがたい内容でした。

この後には前回大会の鈴木賢策賞受賞講演の辻本真規先生、会長賞受賞講演の天野晃先生の講演があり、午前の部終了。

午後は一般講演が5講演、休憩を挟んでテーブルクリニックが9演題と毎年のことながら盛りだくさんの内容でした。

多くの講演を聴いて、1日歯内療法にドブプリ浸かった中で考えたのは有髄歯で処置を行っていく重要性です。

もちろん感染歯質の徹底除去は当然行った上で、露髄の有無、露髄点からの出血の状態などを審査した上で臨床的に歯髄が保存できるのかの判断は大変重要なターニングポイントになります。これは術者の判断で大きく予後を左右します。

「カリエスが大きい→抜髄をして失活歯」という安易な判断ではなく、どうしたら生活歯のままで長く持たせることができるのかをしっかりと考えた上で処置に向かうことが一番重要であると思いました。

直接覆髄を行う上でのMTA。その他にもいろいろなマテリアルがあり、今回のテーマである「MTAをよく知ろう！」ということ踏まえて世界的に見てもMTAの応用範囲は多岐にわたっていて、臨床成績も確実な結果が多く出ています。

しかし方法論や材料の選択よりも先に、歯内療法に至る前にすべきことがあり歯髄の保存を最優先させる術者側の姿勢こそが重要だと感じた1日でした。

アンケートより抜粋 アンケート回数枚数43枚

**Q 今回の研修会・学術大会に参加されていたか？** (満足35枚、普通8枚)

- ・初めて詳しくMTAについて理解できた。
- ・いろいろなMTAの症例が勉強できた事。
- ・MTAの良さの再認識、自分の診療に自信が持てた。。
- ・今一番ホットでトピックなMTAについて、考察を深められたため。

**Q 今回の講演の内容は、今後の診療に役に立ちますか？** (満足34枚、普通8枚)

- ・MTAの臨床応用の幅が増えた。
- ・日々の診療を考えさせられました。
- ・バランシングコンタクト、エンドをするために知っておかないといけない咬合。
- ・患者さんの口腔をより詳しく見て観察したいと思いました。
- ・臨床に即、応用できそうな内容だから。

**Q 今回よく理解できた事は何でしたか？**

- ・MTAの選択、適応範囲。
- ・MTAの有用性
- ・金丸先生の咬合
- ・MTA、バイオセラミックスの利点
- ・安易に根治に行かず、歯髄を残す。
- ・MTAとCa(OH)<sub>2</sub>の比較
- ・MTAを使ってみたいと思いました。

**Q 今回あまり理解できなかった事は何でしたか。**

- ・テーブルクリニックのタイムテーブルが分かりにくかった。よく聞こえなかった
- ・MTAの長期的なその場所に起こっている振る舞い。(in vivo)
- ・インスツルメンテーション
- ・テーブルクリニックのイオン導入。
- ・咬合。
- ・出血している状態でMTAを詰めて治るというのは、たまたまとしか思えないがどうなのか。
- ・大学の実験データの発表はつまらない。

**\*ご意見、ご感想等をお聞かせ下さい。**

- ・学会ですので、発表にあたりCOI開示を求めるべきだと思います。抄録にも規定を定めるべきだと思います。
- ・照明のタイミングが悪い！？
- ・盛りだくさん過ぎるので、もう少し絞って長めの時

間で良いのでは…。

- ・タイムスケジュールに余裕がないです。

**2016年度第20回サマーセミナーについて**

日時：2016年8月25日 (木) 9:00~17:30

場所：日本大学歯学部

大会長：小木曾文内教授 (日本大学)

実行委員：(日本大学)

テーマ：最新のNiTiファイル

ハンズオンセミナー”各種NiTiファイルの実習”

日時：2016年8月25日 (木)

場所：日本大学歯学部

詳細調整中

関東歯内療法学会のホームページをご覧ください。

<http://jea-kantoh.jp/index.php>

皆様からのご意見ご希望などをMailにてお待ちしております。

事務局アドレス：[golden-circle@nifty.com](mailto:golden-circle@nifty.com)